

永平寺町観光地経営戦略に関するパブリックコメント意見募集の結果と町の考え方

意見件数(意見提出者数):7件(7名)

	ご意見	町の考え方
1	資料のP32, P38でKGIが「観光消費額」になっているが、本計画が金儲けの計画に露骨に見えてしまう。KGIは観光入込客数(120万人)がよいのでは。「観光消費額(72億円)」はKPIに回しては。	ご提案ありがとうございます。 本計画のKGIを観光消費額とした理由は、観光分野の収益を町全体に波及させ地域全体の活性化につなげたいとの考えからです。持続可能な観光地としていくために、観光業以外の住民にも受益を拡大していくことを念頭に、より踏み込んだ目標設定としました。
2	サクラマスタウン構想 五松橋周辺 サクラマス名人大会開催、サウナ施設 ランドマーク設置 『サクラマス大使』 『木葉寿し』全国区に デザート、キャラクター公募 『サクラマス』アニメ化 五松橋改修『サクラマス』デザイン	ご提案ありがとうございます。 今回策定する観光地経営戦略は、今後策定するDMO計画の基本戦略となるものです。今回、皆様からいただきましたご提案内容につきましては、今後のDMO計画策定において参考とさせていただきます、協議をまいります。
3	北インターから勝山街道周辺に摂取寺の秘仏馬頭観音を中心に低家賃の高齢者用ドーム型住宅を建設し 鶯鴨の様な朝市街を中心に動物の守護神観音イメージした商品を開発し動物カフェ等の誘致する	
4	町内で 一般道による自動運転で 高齢者やこども弱者など病院等 交通網の充実が出来るといいと思います	

	ご意見	町の考え方
5	<p>インバウンド客に人気の項目としてショッピングが上位に挙げられていますが、その受け皿をどのように整備していくのかについては、十分な議論が必要ではないかと考えます。永平寺町の観光動向においても、歴史文化に次いで買い物・ショッピングの割合が高く、その重要性が示されています。本計画では滞在型観光の推進や観光消費の拡大が掲げられている一方で、商業機能、宿泊施設、体験施設などの消費拠点の整備についての具体的な方向性が十分に示されていないように見受けられます。</p> <p>また、観光発信拠点や宿泊施設、大規模な集客施設の不足が課題として挙げられているものの、それらの課題をどのように解決していくのかについての具体的な施策が見えにくいように感じます。</p> <p>観光導線の中で来訪者が立ち寄り滞在できる拠点をどのように位置付けていくのかについても整理する必要があるのではないのでしょうか。例えば、</p> <p>①飲食・物販・情報発信機能を備えた観光拠点 ②休憩・観光案内・物販などを兼ね備えた交流拠点 ③来訪者が滞在できる複合的な観光交流施設</p> <p>など、観光客が立ち寄りやすく滞在できる拠点を観光導線の中でどのように整備していくのかを示すことが重要ではないかと考えます。</p> <p>特に観光地のハブとなる拠点が不足している点は課題であると感じます。都市計画では北インター周辺の適切な用地誘導が検討されているとされていますが、道の駅のような観光発信拠点や大型商業施設、宿泊施設など、観光消費を受け止めるハード面の整備についても検討する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>他県の例では、長野県須坂市において観光集客施設として商業施設を誘致し、地域経済牽引事業計画としてにぎわいの創出が期待されています。永平寺町においても門前町での商業機能の充実を図るとともに、町内へ観光消費をどのように取り込むのかについて検討することが重要ではないかと考えます。</p> <p>本計画が個別の大型事業の実施可否を決定するものではないという点については理解しております。しかしながら、観光振興の観点からは、土地利用の方向性も含め、商業機能や観光拠点の整備など、観光消費を域内に取り込むための方策をどのように位置付けていくのかについて、計画上の基本的な考え方を示していただくことが、計画の実効性を高める上でも重要ではないかと考えます。</p> <p>また、永平寺のみに依存した観光ではなく、新たな観光資源の活用も重要ではないかと考えます。永平寺町には地域特有の伝統的な古民家や集落景観が維持されている地域があり、それらを観光戦略の中で活用していく視点が必要ではないのでしょうか。</p> <p>行政が町並みの環境保全や活用に取り組む地域を支援し、それを観光振興につなげることができれば、広域交流人口の拡大と地域経済の下支えにつながると考えます。</p> <p>松岡十二曲がりや伝統的民家群保存活用推進地区などの歴史・文化的な町並みや自然環境といった地域資源についても、観光客に分かりやすく情報発信していくことが重要ではないのでしょうか。観光客がどこを目的地として訪れ、どのように町内を回遊するのが分かりやすく示されていない場合、滞在時間や観光消費の拡大にはつながりにくいと考えます。</p> <p>そのため、町内の観光導線を明確に示す取り組みとして、観光客の視点で理解しやすい地図、案内表示、デジタルコンテンツ等の充実、パンフレット形式の情報発信、ガイド、案内標識などの整備についても検討する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>永平寺のみに依存した点の観光だけでなく、観光導線を整備することで面的な観光へと発展させていく視点も重要であると考えます。本計画では点と点の観光地を結ぶことが挙げられていますが、それらをどのような導線でつなげていくのかについての具体的な記述は少ないように感じます。</p> <p>宿泊施設の不足も課題として挙げられていますが、本計画ではあわら温泉や加賀温泉郷との連携が触れられているものの、どのような形で連携を進めていくのかについては十分に示されていないように感じます。福井県のみならず、近隣県の市町村との広域連携も視野に入れた観光戦略を検討することが必要ではないのでしょうか。</p> <p>市町村や県をまたぐ広域的な観光戦略を構築し、県や各自治体が連携して観光導線を形成し、それを積極的に発信していくことも重要であると考えます。観光客が地域内で宿泊せず日帰り帰ってしまう場合、地域に落ちる観光消費は結果として小さくなるため、宿泊や滞在を促す観光の仕組みづくりが必要ではないのでしょうか。</p> <p>その一つの方向性として、地域の伝統文化や歴史資源を活用した商業機能の整備も考えられます。例えば地域文化や工芸、食文化をテーマとした小規模なセレクトショップ型の商業施設群を整備することで、観光客が地域の魅力を体験しながら買い物を楽しめる仕組みを作ることも一つの方法ではないのでしょうか。</p> <p>大規模な施設を一度に整備することが難しい場合でも、地域の特色を生かした文化特化型の商業集積を段階的に形成していくことで、観光消費を地域内に落とす仕組みに寄与すると考えます。</p> <p>こうした観光消費の域内循環を意識した取り組みについても、本計画の中で位置付けていくことが重要ではないのでしょうか。</p> <p>最後に、永平寺門前周辺では駐車場への誘導などに関して、しつこい客引き行為が見られる場合があると感じます。観光地においては、こうした行為が観光客の満足度を低下させる要因となる可能性があります。</p> <p>例えば坂井市では、東尋坊において観光満足度が低い理由の一つとして客引き行為が問題として指摘されているという意見もあります。永平寺町においても、観光客が安心して訪れることができる環境を整える観点から、過度な客引き行為への対応や観光地としての適切なルールづくりについて検討する必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>観光地の印象は初めて訪れる来訪者の体験によって大きく左右されるため、受入環境の整備という観点からも重要な課題であると考えます。</p> <p>本計画の趣旨は理解しておりますが、より実効性のある観光地経営戦略とするためにも、これらの点について今後の検討の中で具体的な方向性を示していただければと考えます。</p>	<p>ご提案ありがとうございます。</p> <p>今回策定する観光地経営戦略は、今後策定するDMO計画の基本戦略となるものです。今回、皆様からいただきましたご提案内容につきましては、今後のDMO計画策定において参考とさせていただきます、協議をさせていただきます。</p>
6	<p>永平寺町の観光地経営戦略は、禅文化を中心とした地域資源を活かし、持続可能な観光地づくりを目指す取り組みとして大変意義のあるものと感じました。特に、曹洞宗の大本山である永平寺を核とした禅文化の発信は、永平寺町ならではの大きな魅力であり、国内外の来訪者に対して地域ブランドとしての価値を高めるものと考えます。また、坐禅体験や精進料理などの文化資源を活かした観光や、景観と調和したまちづくりを推進する方向性は、地域文化を尊重しながら観光振興を進める持続可能な観光のあり方として評価できるものです。</p> <p>一方で、町民の立場から見ると、観光が寺院参拝を中心とした形になりやすく、観光客の行動範囲や滞在時間が限定される傾向もあるのではないかと感じています。永平寺町を訪れる方々に、寺院だけでなく町全体の魅力に触れていただくことができれば、地域のにぎわいの創出や観光消費の拡大にもつながると考えます。そのためには、坐禅体験や精進料理体験に加え、里山の自然散策や地域の食文化を楽しむ体験型観光プログラムの充実を図り、町内をゆっくり巡ることが出来る環境づくりが重要であると思います。</p> <p>また、県内の主要観光施設である福井県立恐竜博物館などとの連携により、周遊型の観光ルートを整備することで、観光客の滞在時間の延長や地域内での消費拡大にもつながることが期待されます。さらに、永平寺町が世界的な持続可能な観光の評価である「Green Destinations Top 100」(グリーン・デスティネーションズ)に選ばれたことは、地域の取り組みが国際的に評価された成果であり、今後の観光振興において大きな強みになるものと考えます。</p> <p>今後は、禅文化に加え、里山の自然体験、農業体験、地域の食文化や日本酒文化など、永平寺町ならではの魅力を活かした体験型観光の充実を図るとともに、観光に関する情報発信やマーケティング、商品づくりを担うDMOの機能を強化し、データを活用した観光地づくりを進めていくことを期待します。町の魅力を活かした持続可能な観光地づくりが、今後さらに推進されることを願っています。</p>	

	ご意見	町の考え方
7	<p>主に障がい福祉サービスの事業を運営している法人です。障がいのある方のかかわりが、日頃から多く、さまざまな話を聞くなかで、「おいしいものを食べに県外に行きたい」「プロ野球が始まったら観戦に行きたい」「自分の行きたいところに自由に行くことができれば、どんなに生活が充実するだろう」など、余暇活動の充実を希望される声が増えてきています。今回の永平寺町観光地経営戦略(案)では、移動の際に、常時車いすを使用されている方や視覚障がい者など、移動に困難を抱える方の環境整備は、どの程度、計画されているのかが、不明です。北陸新幹線での来訪者の増加も見込まれているようですが、その際に、多くの車いすユーザーも見込んでおく必要があるのではないのでしょうか。</p> <p>また、重症心身障がい児者などの旅行を、支援する団体や企業なども増えてきており、実際に、観光地でそのような方たちを見かける機会も増えてきました。なかには、医療的ケアの必要性が高い方もおられると思いますので、その方々が、可能な限り安心して旅行ができる環境を整えていくことも重要な視点です。(例えば、福祉用具や医療機器の業者と観光関係団体とのつながりを構築するなど)</p> <p>基本戦略④の「みんなが幸せになる」の「みんな」とは、誰を想定しているのか、想定している旅行者に漏れがないか、再考いただけると幸甚です。</p> <p>当計画では、関東圏の50代～60代の高所得夫婦層や中京圏のファミリー層をターゲットとしている中で、足の不自由な方や高齢による移動困難なケースも想定されます。移動に困難な方への対応をより柔軟に備えておくことは、本来のターゲット層に対しての訴求効果も他の地域より強みになると考えます。旅行には少し不安を抱えている方もふくめ、すべての方が、安心して、より快適に、永平寺町を楽しんでもらうことができれば、「禅のまち 永平寺町」の大きな魅力のひとつになるのではないのでしょうか。</p>	<p>ご提案ありがとうございます。</p> <p>この観光地経営戦略では、年齢、性別、障がいの有無に関係なく「みんな」が幸せになることを想定しております。</p> <p>今後、観光DMO登録に向け、協議会や分科会を開催していきますので、バリアフリーやユニバーサルデザインなどといった環境整備についても検討させていただきます。</p>